

株式会社どうこい

児童発達支援・放課後等デイサービス 支援プログラム

A-4 生き物観察

■「一人一人にそれぞれのツツウ」

■自分で感じ・考え・選び・決める・行動する

■視覚的・具体的・肯定的なコミュニケーション

取組み	①健康・生活	②運動・感覚	③認知・行動	④言語・コミュニケーション	⑤人間関係・社会性	家族支援	地域支援
チームの編成	■この季節に、この場所で、どんな生き物に出会ったかを思い出す。		■「りんりん（スタッフ）が生き物探し、生き物観察に出発するけど、一緒に行く人いませんか？」と声掛けし、希望者を募る。■自分が行きたいか、行きたくないか、考えて、自分で決める。■参加希望者は同行する意志を、言葉にスタッフに伝える。■「一緒に行こう」と友だちを誘うのはOK。「行きたくない」と断るのもOK。■「〇〇くんが行かないのなら行かない」というのはNG。「誰かが行くから」ではなく自分で選ぶ・決める・行動する。を促す。			■オープンフィールドのメニューに組み入れ、家族で参加してもらう。	■地域イベント開催し、地域のみなさんにも参加していただき、一緒に地域の自然の豊かさを感じたい。 ■また、この環境を維持するために何が出来るのかを地域のみなさんと一緒に考え、環境保全活動に発展させていきたい。
ルートの選択			■以前はどこに生き物がいたか、どこに生き物がいるか予想を立てる。■予想を言葉にして他者に伝える。■他者の意見を聴く。■みんなの意見を総合して、「探す生き物」と「ルート」を決定する。				
服装・機材準備	■この時季のフィールド探検に相応しい服装と装備を考え、準備する。		■必要な機材について考える。■自分の考えを言葉にして他者に伝える。■他者の意見を聴く。■機材リストを作成する。■機材リストに準じて機材を調達する。				
生き物探し		■不整地・斜面の移動、姿勢・バランスの保持。■斜面や茂みの中丸太の上などを移動し、生き物がいそうな場所を探索する。■丸太を裏返す。スコップで朽ち木の皮を剥がす。落ち葉を掘る。■捕獲した生き物は速やかに観察ケースに入れる。					
観察		■生き物がどんな感触をしているか、どんな動きや匂いがするか五感を使って観察する。■必要に応じて虫眼鏡やマイクロスコープで観察する。■フィールドノートにスケッチし、観察した特徴などを書き込む。					
リリース			■生き物が弱り、場合によっては死ぬので、観察を終えたら、速やかに元いた場所に逃がす。	■「もっと触っていたい」「連れて帰りたい」という子に対しては「食べないのに殺すのは人間だけ」「殺すときは食べるとき」「死なせてしまったら食べる」と伝え、理解してもらう。			
振り返り（観察の共有）				■各自でフィールドノートを仕上げ、■みんなの前で観察記録を発表する。■他者の発表を聴く。■互いに感想を述べ合う。		■振り返りにも参加してもらい、コメントをいただく。	

